

# 長浜企業 景況調査

## 報告書



**実績** 2025年 4月～6月

**見通し** 2025年 7月～9月

### 今期のトピックス

- ①原油・原材料価格の変化に関する事業活動への影響について
- ②米国の追加関税措置の自社への影響について



### アプリのご紹介

スマホやタブレットでご利用いただける、長浜商工会議所の専用アプリケーション“長浜商工会議所 News”をリリースいたしました！  
 発信した情報を「いち早く」「多くの方に」見ていただくことを目的に作成したアプリです。  
 補助金やセミナー・イベント情報等々、情報に更新があるとアプリに通知が届きます☆(要設定なので、ぜひプッシュ通知はONにしてください！)  
 健康診断や検定試験などのご案内もございますので、代表や担当の方だけでなく、社員皆さままでご利用いただけたらと思います(^^)

■Android・タブレットをご利用の方→  
 Google Play ストアからダウンロード



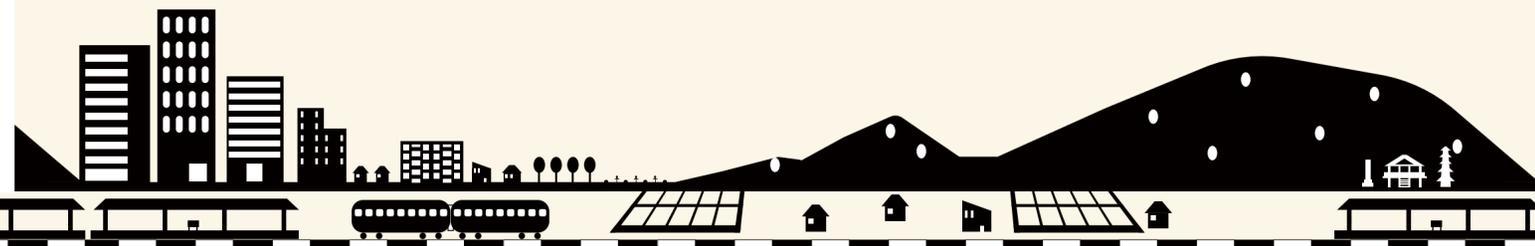
■Iphone・ipad をご利用の方→  
 App Store からダウンロード



「長浜商工会議所」とご検索ください(^^)!



 **長浜商工会議所**  
 NAGAHAMA Chamber of Commerce and Industry



# コンテンツ

- 01** 調査概要

---

**02** 今期のトピックス

---

**03** 全体の景況感（総括）

---

**04** 調査項目別 DI 値

---

**04** 業種別業況 DI の推移（長期トレンド）
- 05** 業種ごとの動向  
(卸売業・小売業・サービス業・建設業・製造業)

---

**07** 設備投資の有無

---

**08** 調査項目別 DI の推移

---

**10** その他業種別自由意見

# 調査概要

## 長浜企業景況調査について

\*2025年4-6月期に、現在の会員企業の業種構成に近づけるため調査対象企業の見直しを行いました。その結果、サービス業及び建設業の構成比が増加し、他の3業種の構成比が減少しました。

### ①調査対象期間・調査時点

調査対象期間：令和7年4月～6月  
調査時点：令和7年7月1日

### ②調査方法

長浜商工会議所会員企業220社へのFAX方式・メール方式による調査

### ③調査対象企業数

220社（内訳は右表通り）

### ④報告者

中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		*2025.1-3期以前の調査対象企業		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	21	9.5%	24	10.9%	15	10.1%	71.4%
小売業	35	15.9%	40	18.2%	19	12.8%	54.3%
サービス業	84	38.2%	70	31.8%	59	39.6%	70.2%
建設業	38	17.3%	32	14.5%	24	16.1%	63.2%
製造業	42	19.1%	54	24.5%	32	21.5%	76.2%
合計	220	100.0%	220	100.0%	149	100.0%	67.7%

## 長浜企業景況調査の見方について

### DI 指数について

- ①調査結果を示す指数としてDI指数を採用しています。
- ②調査項目のうち、「業況（自社）」「売上高」「採算（経常利益）」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入価格」「業界動向（同業他社）」「長・短期資金借入難易度」「受注動向（建設業）」「在庫量（製造業）」のDI指数は前年同期と比較しています。
- ③「取引の問合せ」と「採算の水準」のDI指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

### DI 指数の見方について

- ①DI指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気が良い」と判断されます。
- ②このDI指数を前期、今期、来期とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。
- ③業況DIは経営者の景況感を反映しています。主観的な要素もはありますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いです。
- ④資金繰りDIは概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。
- ⑤小売業は売上高DI、卸売業は資金繰りDI、サービス業は従業員DIの推移が注目する指数です。
- ⑥建設業は季節による影響が業況DIに認められています。これは公共工事との連動のためで1～3月期は総じて低調な傾向となります。

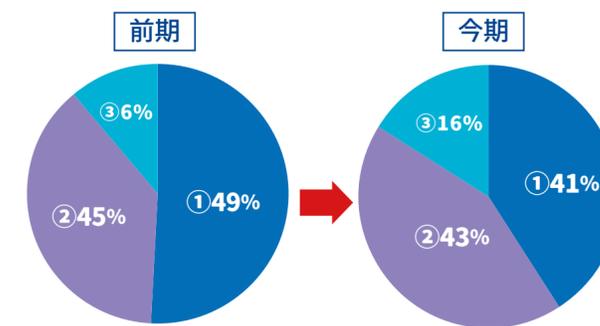
### 設備投資の見方について

- ①好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。

# 今期のトピックス

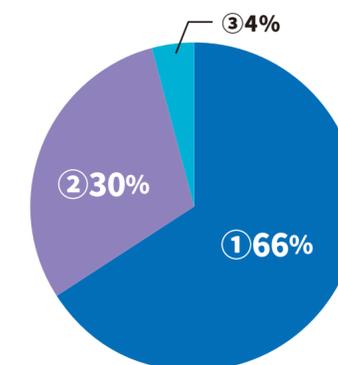
## 1. 原油等、原材料価格上昇の影響

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
①悪影響がある	8	10	18	13	12	61
②少し悪影響がある	7	8	21	8	19	63
③悪影響はない	0	0	20	3	1	24
合計	15	18	59	24	32	148

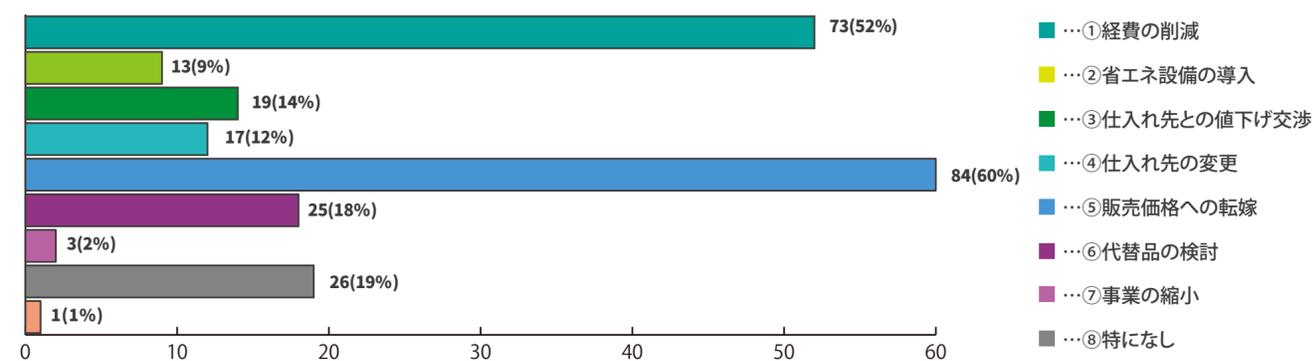


### 1-2. 前問で、「①悪影響がある」「②少し悪影響がある」を選択した方

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
①原油価格の悪影響も、原材料価格上昇の悪影響もある	13	14	22	12	21	82
②原油価格の悪影響は少なくなったが、原材料価格上昇の悪影響がある	2	4	12	9	10	37
③原油価格の悪影響はあるが、原材料価格の悪影響は少なくなった	0	0	5	0	0	5
合計	15	18	39	21	31	124



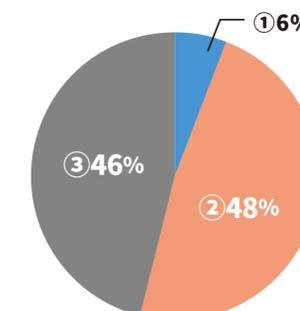
## 2. 原油・原材料価格変化の対策について（複数回答あり、有効回答社数 140 社、回答数 261）



※各項目の()内の割合は、回答社数に占める割合(複数回答のため合計は100%にならない)

## 3. 米国の追加関税措置の自社への影響

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
①悪影響がすでに出ている	2	1	1	1	3	8
②悪影響はまだ出ていないが今後は影響してくる	9	9	18	12	19	67
③悪影響は現在も今後もない	4	8	36	8	8	64
合計	15	18	55	21	30	139



# 全体の景況感（総括）

## 業況DIはマイナス幅が拡大

全体の業況DIは、前期（2025年1-3月期）の▲1.5から今期は▲4.0とマイナス幅が拡大しました。売上高DIは▲2.0で前期比3.5ポイント低下、採算（経常利益）DIは▲9.5で同5.8ポイントマイナス幅が拡大しました。

販売価格DIは40.7で前期比6.3ポイント低下し、仕入れ価格DIは66.0で同12.0ポイント低下しました。その結果、販売価格DIから仕入れ価格DIを差し引いた価格転嫁度は▲25.3で同5.7ポイントマイナス幅が縮小しました。

従業員DIは▲20.8で前期に比べほぼ横ばいでした。

採算の水準DI（黒字企業の割合-赤字企業の割合、23.8）が3期ぶりにコロナ禍後最高値を更新しプラス圏は15期連続となりました。

来期（2025年7-9月期）の業況DIは▲1.4で今期より2.6ポイントマイナス幅が縮小する見通しとなります。

## 業況DIは卸売業、小売業でマイナス幅が縮小

業種別の業況DIは、卸売業、小売業でマイナス幅が縮小、建設業は低下しマイナス圏へ、製造業でマイナス幅が拡大しました。サービス業は低下しましたが唯一プラス圏でした。採算DIは、卸売業で大幅に上昇し9期ぶりにプラス圏となりました。建設業、サービス業は低下しマイナス圏に、製造業、小売業はマイナス幅が拡大しました。従業員DIは、建設業、サービス業で不足感が弱まり、その他の3業種で強まりました。

卸売業は、売上高DI（6.7）、採算DI（13.3）がともに上昇しそれぞれ4期ぶり9期ぶりにプラス圏に浮上し、業況DIは8期ぶりにもちあい（0.0）へと上昇しました。小売業は、採算DI（▲21.1）のマイナス幅が拡大しましたが、売上高DI（▲10.5）のマイナス幅が縮小し、業況DI（▲10.5）はマイナス幅が縮小しました。サービス業は、売上高DI（5.1）、採算DI（▲5.1）がともに低下し、業況DI（6.8）は低下しました。建設業は、売上高DI（▲16.7）が前期比27.2ポイント、採算DI（▲20.8）が同31.3ポイントともに低下し、業況DI（▲20.8）は同36.6ポイント低下しました。従業員DI（▲33.3）は同29.9ポイントマイナス幅が縮小し不足感が大幅に弱まりました。製造業は、売上高DI（▲3.1）が低下、採算DI（▲12.9）はマイナス幅が拡大し、業況DI（▲9.4）はマイナス幅が拡大しました。

来期の業況DIは、建設業、サービス業で上昇、卸売業は横ばい、小売業、製造業でマイナス幅が拡大する見通しとなりました。

## 設備投資計画やや強まる

本調査と同時に実施した「設備投資の計画状況」調査によると、設備投資計画が「ある」と答えた企業の割合は前期より増加し33.1%で5期ぶりに30%台となりました。最も高かったのは製造業の48.4%で、次いで卸売業（40.0%）、サービス業（30.5%）、建設業（25.0%）、小売業（21.1%）でした。

投資内容では、景気回復期に強まる「生産力増加」投資（18.4%）と「合理化・省力化」投資（30.6%）の合計が49.0%と前期より3.6ポイント減少しました。

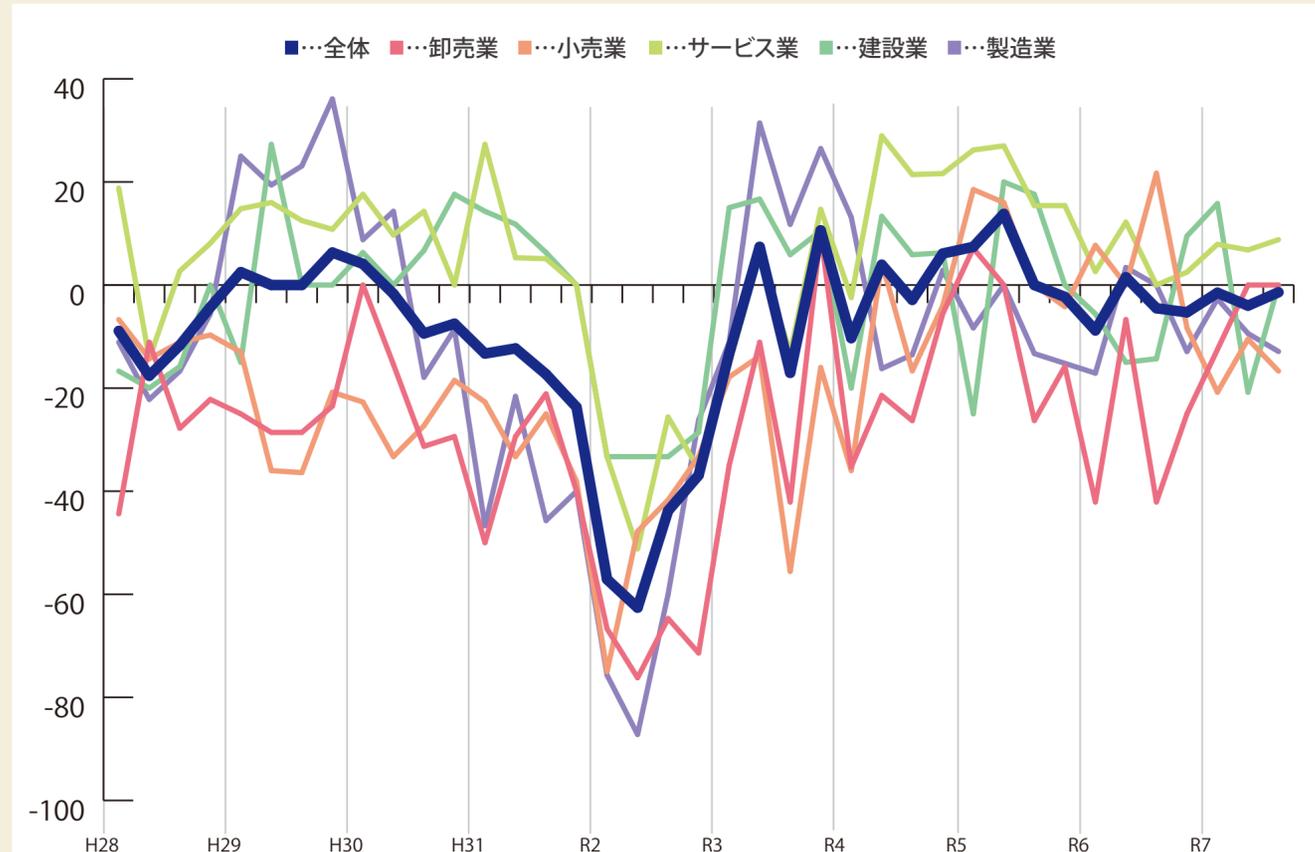
業況DIがマイナス圏で推移する中「設備投資計画がある」企業が2期連続で伸びているが、先行きの不透明感から「景気動向によって見直す」企業の割合（28.6%）が前期比7.5ポイント増加しており設備投資に慎重な姿勢も窺える。

（中小企業診断士 川副 郷一郎）

# 調査項目別 DI 値

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
業況	1.5	▲ 4.5	▲ 5.3	▲ 1.5	▲ 4.0	▲ 1.4
売上高	2.3	▲ 4.5	0.0	1.5	▲ 2.0	▲ 0.7
採算(経常利益)	▲ 11.4	▲ 15.3	▲ 8.3	▲ 3.7	▲ 9.5	▲ 8.3
資金繰り	▲ 5.3	▲ 13.7	▲ 8.3	▲ 6.0	▲ 2.7	▲ 3.5
従業員	▲ 26.5	▲ 22.0	▲ 24.4	▲ 20.3	▲ 20.8	▲ 25.5
取引の問い合わせ	▲ 8.5	▲ 5.4	▲ 6.9	▲ 17.6	▲ 6.8	▲ 6.4
採算の水準	15.9	8.4	20.5	11.4	23.8	16.7
販売価格	39.5	35.2	41.2	47.0	40.7	41.1
仕入れ価格	71.3	72.1	71.5	78.0	66.0	66.7
業界動向	▲ 20.6	▲ 20.9	▲ 20.5	▲ 30.8	▲ 17.9	▲ 18.0
借入難易度(長期)	1.6	▲ 1.6	▲ 0.8	0.8	7.1	6.6
借入難易度(短期)	6.3	1.6	4.8	2.3	9.2	8.0
受注動向(建設業)	▲ 15.8	0.0	0.0	15.8	▲ 8.3	▲ 12.5
在庫量(製造業)	▲ 8.3	11.1	▲ 3.7	▲ 12.9	▲ 14.8	▲ 7.4

# 業種別業況 DI の推移（長期トレンド）



※R7.7-9のDIは見通し

# 業種ごとの動向（卸売業・小売業・サービス業・建設業）

**業況の動き アイコンの説明**

- 前期の業況DI値から +1以上
- 前期の業況DI値から +1未満 ▲1超
- 前期の業況DI値から ▲1以下

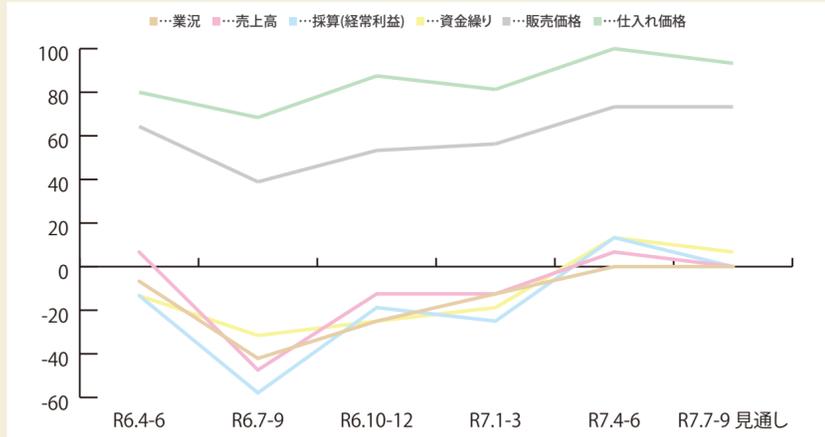
※全国の業況DI... 「中小企業業況調査」 (中小企業庁)結果より

### 卸売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国	長浜
業況 DI ▲16.2→▲13.8	業況 DI ▲12.5→0.0

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
業況	▲6.7	▲42.1	▲25.0	▲12.5	0.0	0.0
売上高	6.7	▲47.4	▲12.5	▲12.5	6.7	0.0
採算(経常利益)	▲13.3	▲57.9	▲18.8	▲25.0	13.3	0.0
資金繰り	▲13.3	▲31.6	▲25.0	▲18.8	13.3	6.7
販売価格	64.3	38.9	53.3	56.3	73.3	73.3
仕入れ価格	80.0	68.4	87.5	81.3	100.0	93.3



### 事業者の声

**好転**

- 業務効率化や新事業が良くなってきている

**悪化**

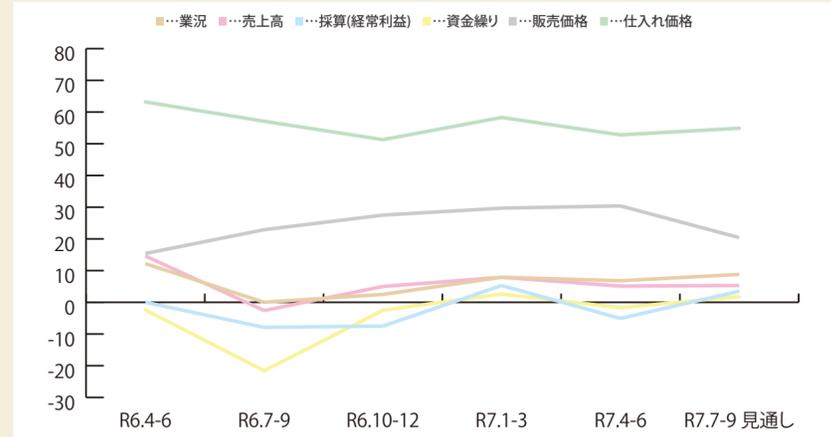
- 想定より早いペースで販管費が増えている
- 消費のマインドの低下
- 取引先の販売動向に米騒動の影響があること

### サービス業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国	長浜
業況 DI ▲18.4→▲11.1	業況 DI 7.9→6.8

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
業況	12.2	0.0	2.5	7.9	6.8	8.8
売上高	14.6	▲2.6	5.0	7.9	5.1	5.3
採算(経常利益)	0.0	▲7.9	▲7.5	5.3	▲5.1	3.5
資金繰り	▲2.4	▲21.6	▲2.5	2.6	▲1.7	1.8
販売価格	15.4	22.9	27.5	29.7	30.4	20.4
仕入れ価格	63.2	57.1	51.3	58.3	52.8	54.9



### 事業者の声

**好転**

- 訪日外国人客の増加による平均稼働率の向上
- 物販の強化で、客単価は少々上昇
- 不動産取引が東京など都市部を中心に活発な状況が継続し、徐々に取引も取引額も増えているように聞く。原材料などモノの全面的な上昇から「良い土地」は上昇傾向にある

**悪化**

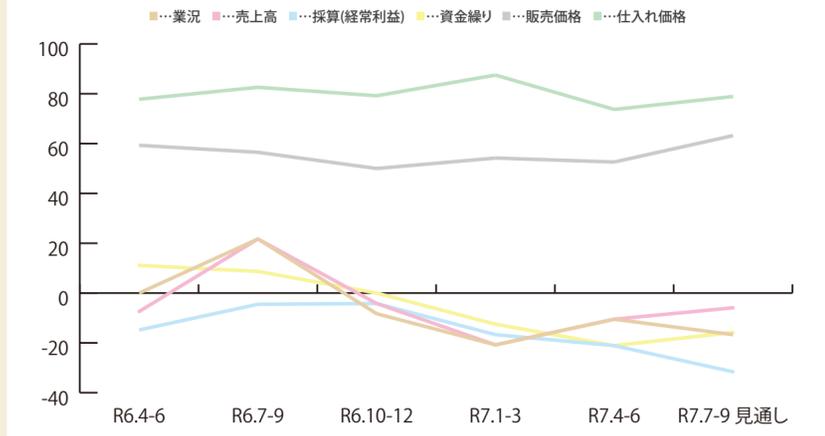
- 原材料や全ての物の値上がり、カード決済が多くなり負担増
- 「良くない土地」は価格の下落が止まらない
- お米の価格高騰

### 小売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国	長浜
業況 DI ▲31.2→▲26.8	業況 DI ▲20.8→▲10.5

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
業況	0.0	21.7	▲8.3	▲20.8	▲10.5	▲16.7
売上高	▲7.4	21.7	▲4.2	▲20.8	▲10.5	▲5.9
採算(経常利益)	▲14.8	▲4.5	▲4.2	▲16.7	▲21.1	▲31.6
資金繰り	11.1	8.7	0.0	▲12.5	▲21.1	▲15.8
販売価格	59.3	56.5	50.0	54.2	52.6	63.2
仕入れ価格	77.8	82.6	79.2	87.5	73.7	78.9



### 事業者の声

**好転**

- EC販売は堅調に推移、国スポ関連の需要も発生
- 実販売単価の引上げ交渉について、取引先の理解が得られやすくなった
- コロナから大分経済活動が活発になり、受注が増えている

**悪化**

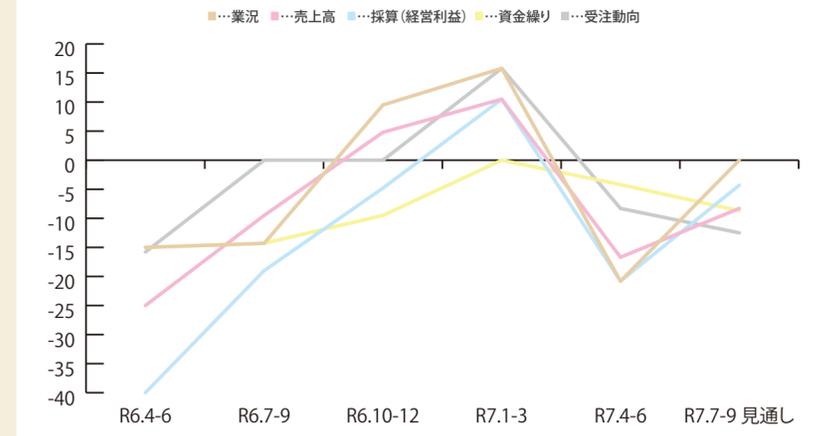
- 物価高により配送費、材料費が高騰。売上に転嫁できず、なかなか利益がでない
- 食品の値上げ等生活必需品の物価高騰により、当店扱い商品の購買に影響あり
- アジア系の観光客が少なくなり、売上に悪影響を及ぼしている店舗もある

### 建設業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国	長浜
業況 DI ▲14.8→▲8.5	業況 DI 15.8→▲20.8

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
業況	▲15.0	▲14.3	9.5	15.8	▲20.8	0.0
売上高	▲25.0	▲9.5	4.8	10.5	▲16.7	▲8.3
採算(経常利益)	▲40.0	▲19.0	▲4.8	10.5	▲20.8	▲4.3
資金繰り	▲15.0	▲14.3	▲9.5	0.0	▲4.2	▲8.7
受注動向	▲15.8	0.0	0.0	15.8	▲8.3	▲12.5



### 事業者の声

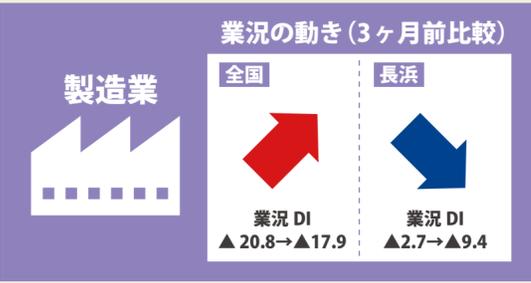
**好転**

- 物価上昇に伴う人件費、資材費の高騰が広く認識され、販売価格への転嫁が行いやすくなった
- 受けでの仕事が増えた

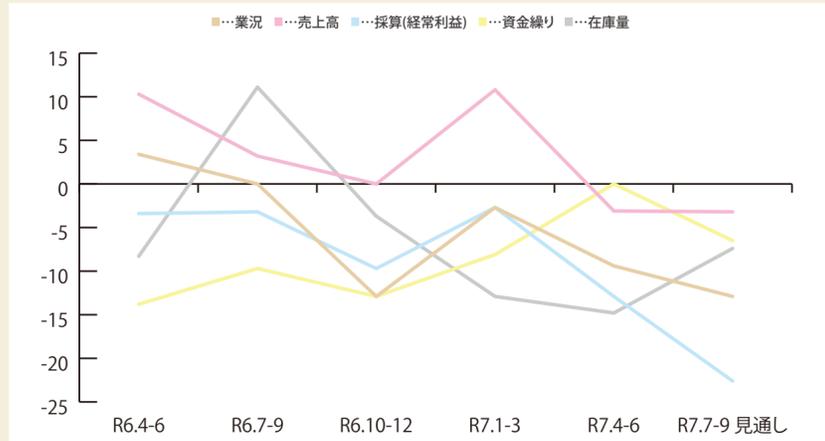
**悪化**

- 物価高騰により消費者の購入意欲が著しく低下している
- 大きな設備投資の際に挑戦できる補助金が少なくなり、設備投資の機会が減少しているように感じる
- R7.6.1施工の熱中症対策の義務化に於ける対価と実質労働時間の制限で夏場3ヶ月程の間、工期と工賃をクリア出来るのか解らない

# 業種ごとの動向（製造業）



	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
業況	3.4	0.0	▲12.9	▲2.7	▲9.4	▲12.9
売上高	10.3	3.2	0.0	10.8	▲3.1	▲3.2
採算(経常利益)	▲3.4	▲3.2	▲9.7	▲2.7	▲12.9	▲22.6
資金繰り	▲13.8	▲9.7	▲12.9	▲8.1	0.0	▲6.5
在庫量	▲8.3	11.1	▲3.7	▲12.9	▲14.8	▲7.4



## 事業者の声

### 好転

- ・人件費等の価格転嫁交渉が非常にスムーズになった
- ・関税発動前の駆け込み需要
- ・自社の業況、受注数も前年よりも多くなり生産数も安定して来ている

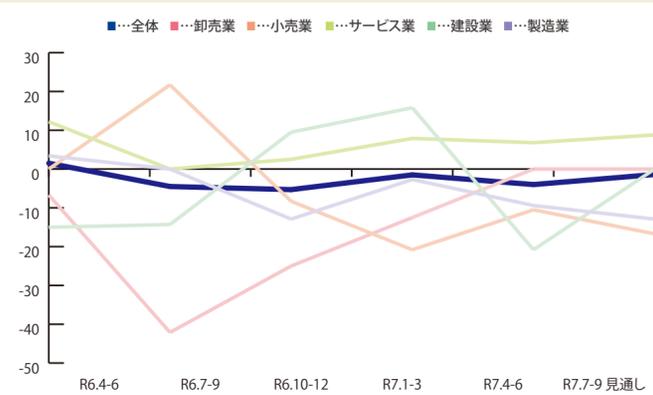
### 悪化

- ・下半期にトランプ関税の影響がでてくる可能性あり
- ・景気の先行き懸念により、設備投資や研究開発の需要が減っている
- ・販売価格の引上げは実施しているが、自社の従業員の賃上げ等に追いつかない。タイムラグもあり収支は厳しい状況である
- ・自動車産業がトランプ関税の動向を踏まえて在庫調整なのか製品の出荷状況が低調
- ・継続的な円安の悪影響

# 調査項目別 DI の推移①

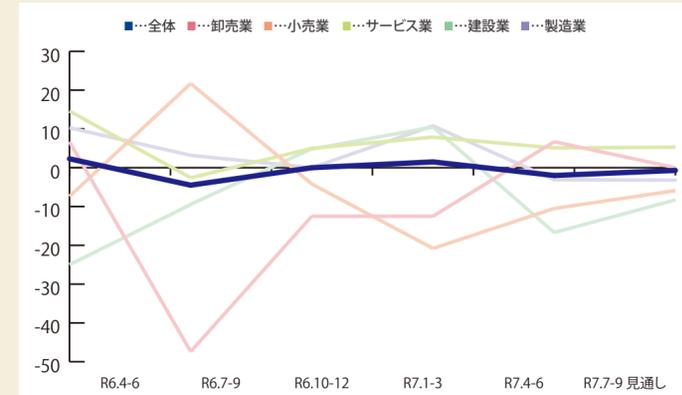
業況（好転-悪化）

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
全体	1.5	▲4.5	▲5.3	▲1.5	▲4.0	▲1.4
卸売業	▲6.7	▲42.1	▲25.0	▲12.5	0.0	0.0
小売業	0.0	21.7	▲8.3	▲20.8	▲10.5	▲16.7
サービス業	12.2	0.0	2.5	7.9	6.8	8.8
建設業	▲15.0	▲14.3	9.5	15.8	▲20.8	0.0
製造業	3.4	0.0	▲12.9	▲2.7	▲9.4	▲12.9



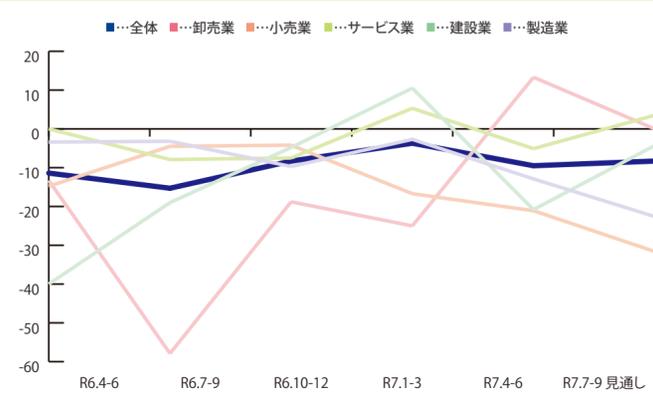
売上高（増加-減少）

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
全体	2.3	▲4.5	0.0	1.5	▲2.0	▲0.7
卸売業	6.7	▲47.4	▲12.5	▲12.5	6.7	0.0
小売業	▲7.4	21.7	▲4.2	▲20.8	▲10.5	▲5.9
サービス業	14.6	▲2.6	5.0	7.9	5.1	5.3
建設業	▲25.0	▲9.5	4.8	10.5	▲16.7	▲8.3
製造業	10.3	3.2	0.0	10.8	▲3.1	▲3.2



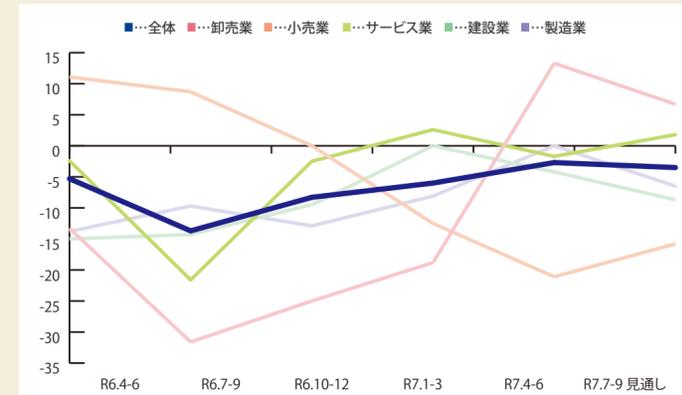
採算（好転-悪化）

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
全体	▲11.4	▲15.3	▲8.3	▲3.7	▲9.5	▲8.3
卸売業	▲13.3	▲57.9	▲18.8	▲25.0	13.3	0.0
小売業	▲14.8	▲4.5	▲4.2	▲16.7	▲21.1	▲31.6
サービス業	0.0	▲7.9	▲7.5	5.3	▲5.1	3.5
建設業	▲40.0	▲19.0	▲4.8	10.5	▲20.8	▲4.3
製造業	▲3.4	▲3.2	▲9.7	▲2.7	▲12.9	▲22.6



資金繰り（好転-悪化）

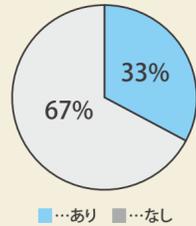
	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
全体	▲5.3	▲13.7	▲8.3	▲6.0	▲2.7	▲3.5
卸売業	▲13.3	▲31.6	▲25.0	▲18.8	13.3	6.7
小売業	11.1	8.7	0.0	▲12.5	▲21.1	▲15.8
サービス業	▲2.4	▲21.6	▲2.5	2.6	▲1.7	1.8
建設業	▲15.0	▲14.3	▲9.5	0.0	▲4.2	▲8.7
製造業	▲13.8	▲9.7	▲12.9	▲8.1	0.0	▲6.5



# 設備投資の有無

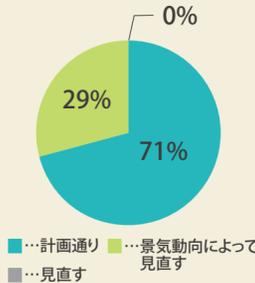
## ① 設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	6	4	18	6	15	49
なし	9	15	41	18	16	99



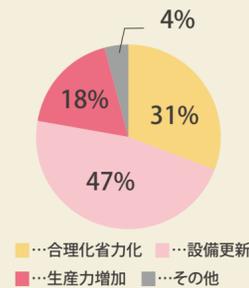
## ② ①で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り	4	3	12	5	11	35
景気動向によって見直す	2	1	6	1	4	14
見直す	0	0	0	0	0	0



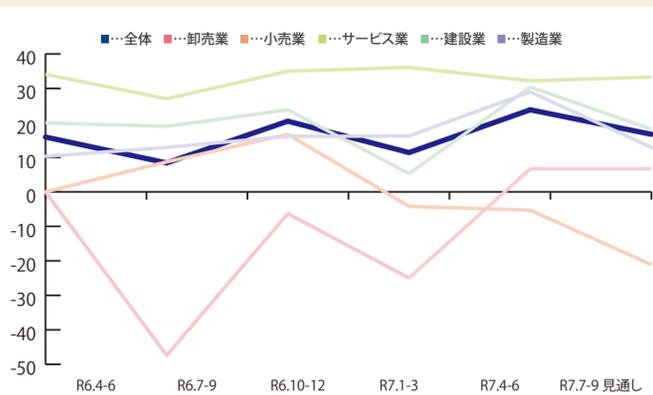
## ③ ①で「あり」と答えた場合、計画の内容について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	0	3	3	3	6	15
設備更新	4	1	11	1	6	23
生産力増加	2	0	3	1	3	9
その他	0	0	1	1	0	2



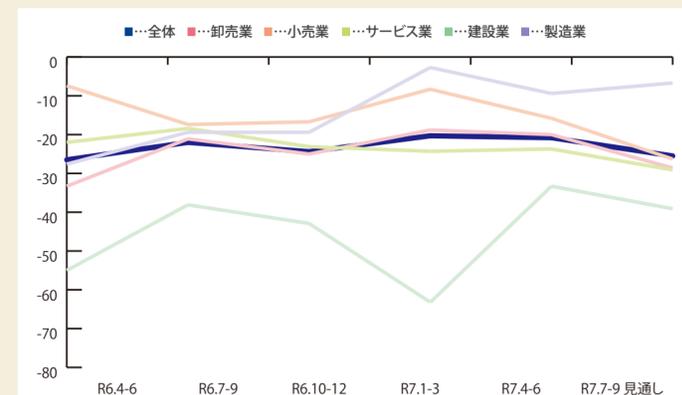
採算の水準（黒字-赤字）

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
全体	15.9	8.4	20.5	11.4	23.8	16.7
卸売業	0.0	▲47.4	▲6.3	▲25.0	6.7	6.7
小売業	0.0	8.7	16.7	▲4.2	▲5.3	▲21.1
サービス業	34.1	27.0	35.0	36.1	32.2	33.3
建設業	20.0	19.0	23.8	5.3	30.4	18.2
製造業	10.3	12.9	16.1	16.2	29.0	12.9



従業員（過剰-不足）

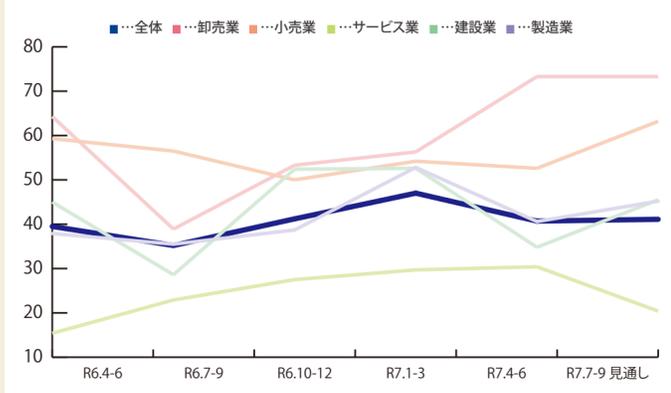
	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
全体	▲26.5	▲22.0	▲24.4	▲20.3	▲20.8	▲25.5
卸売業	▲33.3	▲21.1	▲25.0	▲18.8	▲20.0	▲28.6
小売業	▲7.4	▲17.4	▲16.7	▲8.3	▲15.8	▲26.3
サービス業	▲22.0	▲18.4	▲23.1	▲24.3	▲23.7	▲29.1
建設業	▲55.0	▲38.1	▲42.9	▲63.2	▲33.3	▲39.1
製造業	▲27.6	▲19.4	▲19.4	▲2.7	▲9.4	▲6.7



# 調査項目別 DI の推移②

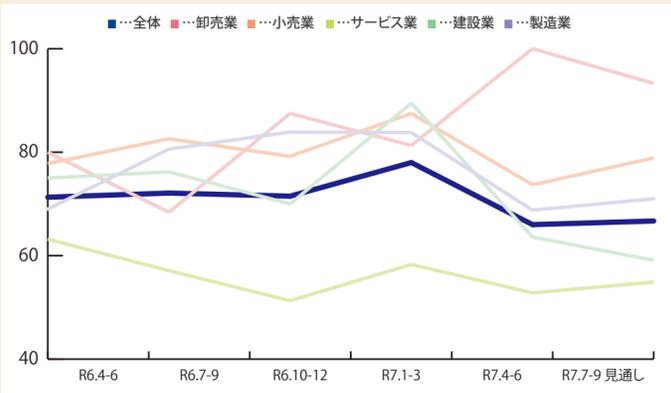
## 販売価格(上昇-下落)

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
全体	39.5	35.2	41.2	47.0	40.7	41.1
卸売業	64.3	38.9	53.3	56.3	73.3	73.3
小売業	59.3	56.5	50.0	54.2	52.6	63.2
サービス業	15.4	22.9	27.5	29.7	30.4	20.4
建設業	45.0	28.6	52.4	52.6	34.8	45.5
製造業	37.9	35.5	38.7	52.8	40.6	45.2



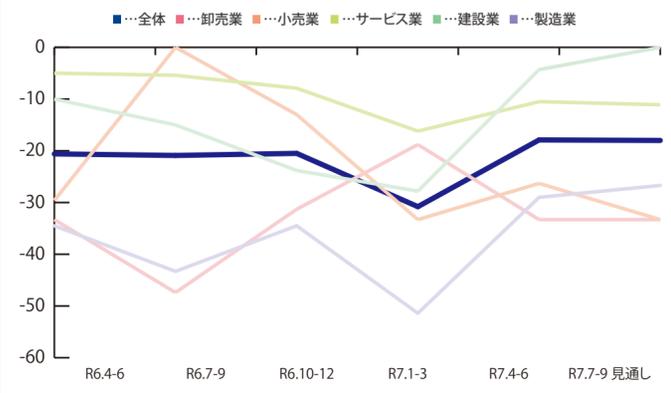
## 仕入価格(上昇-下落)

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
全体	71.3	72.1	71.5	78.0	66.0	66.7
卸売業	80.0	68.4	87.5	81.3	100.0	93.3
小売業	77.8	82.6	79.2	87.5	73.7	78.9
サービス業	63.2	57.1	51.3	58.3	52.8	54.9
建設業	75.0	76.2	70.0	89.5	63.6	59.1
製造業	69.0	80.6	83.9	83.8	68.8	71.0



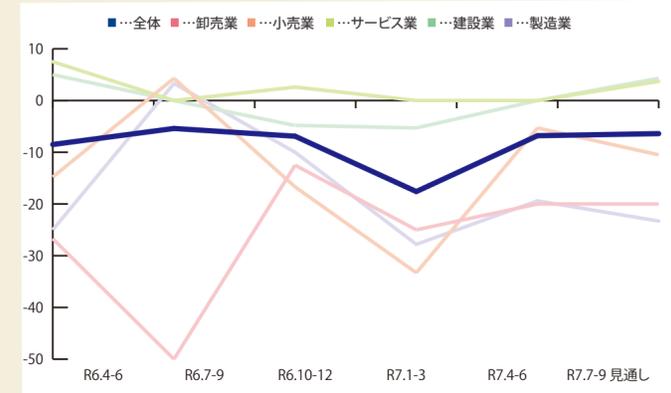
## 業界動向(好転-悪化)

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
全体	▲20.6	▲20.9	▲20.5	▲30.8	▲17.9	▲18.0
卸売業	▲33.3	▲47.4	▲31.3	▲18.8	▲33.3	▲33.3
小売業	▲29.6	0.0	▲13.0	▲33.3	▲26.3	▲33.3
サービス業	▲5.0	▲5.4	▲7.9	▲16.2	▲10.5	▲11.1
建設業	▲10.0	▲15.0	▲23.8	▲27.8	▲4.3	0.0
製造業	▲34.5	▲43.3	▲34.5	▲51.4	▲29.0	▲26.7



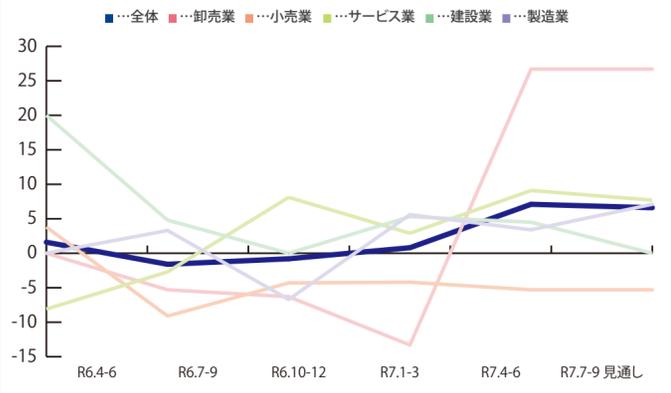
## 取引問合せ(活発-低調)

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
全体	▲8.5	▲5.4	▲6.9	▲17.6	▲6.8	▲6.4
卸売業	▲26.7	▲50.0	▲12.5	▲25.0	▲20.0	▲20.0
小売業	▲14.8	4.3	▲16.7	▲33.3	▲5.3	▲10.5
サービス業	7.5	0.0	2.6	0.0	0.0	3.7
建設業	5.0	0.0	▲4.8	▲5.3	0.0	4.3
製造業	▲25.0	3.3	▲10.0	▲27.8	▲19.4	▲23.3



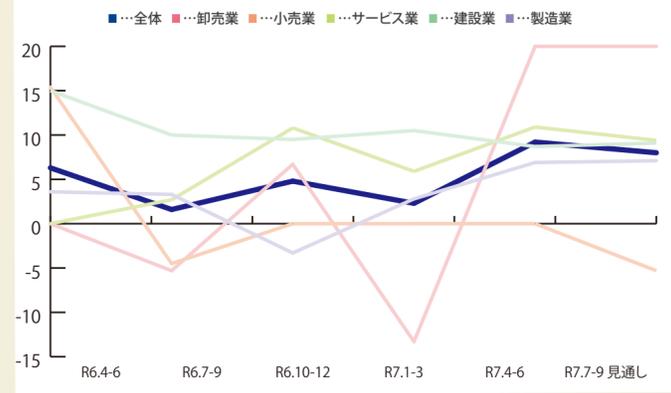
## 長期資金借入難度(容易-困難)

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
全体	1.6	▲1.6	▲0.8	0.8	7.1	6.6
卸売業	0.0	▲5.3	▲6.3	▲13.3	26.7	26.7
小売業	3.8	▲9.1	▲4.3	▲4.2	▲5.3	▲5.3
サービス業	▲8.1	▲2.7	8.1	2.9	9.1	7.7
建設業	20.0	4.8	0.0	5.3	4.5	0.0
製造業	0.0	3.3	▲6.7	5.6	3.4	7.1



## 短期資金借入難度(容易-困難)

	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9 見通し
全体	6.3	1.6	4.8	2.3	9.2	8.0
卸売業	0.0	▲5.3	6.7	▲13.3	20.0	20.0
小売業	15.4	▲4.5	0.0	0.0	0.0	▲5.3
サービス業	0.0	2.7	10.8	5.9	10.9	9.4
建設業	15.0	10.0	9.5	10.5	8.7	9.1
製造業	3.6	3.3	▲3.3	2.8	6.9	7.1



# その他業種別自由意見

	好転👍	悪化👎
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務効率化や新事業が良くなってきている。</li> <li>・中堅のお客様で急に高額設備を導入されました。自動化を急がれたのか、結果が出ることを期待しています。</li> <li>・米騒動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定より速いペースで販管費が増えている。</li> <li>・消費のマインドの低下。</li> <li>・お金の使い道の変化。</li> <li>・米追加関税の影響は無いと思うが、どのように波及するか不透明すぎる。</li> <li>・湖北地域の公共投資が少なすぎる。活性化させようとする動きすら全く見えてこない。</li> <li>・受注案件が先送りとなり、市況の状況を勘案しているように感じる。元々人手不足であったが、営業力、生産性、作業効率を上げようと考えたらさらに人手不足を感じる。</li> <li>・取引先の販売動向に米騒動の影響がある。</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EC販売は堅調に推移、国スゴ関連の需要も発生。</li> <li>・実店舗主体からEC主体に変化させているため、同品種の多売が可能になった。</li> <li>・販売単価の引上げ交渉について、取引先の理解が得られやすくなった。</li> <li>・コロナから大分経済活動が活発になり、受注が増えている。</li> <li>・イベント等の人出は多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活必需品の物価高騰により、商品の購買に影響あり。</li> <li>・仕入価格は上昇しているが、なかなか販売価格に転嫁できない。</li> <li>・トランプ関税による消費マインドの低下が今後懸念される。</li> <li>・原材料等の価格が依然として高騰し続けている。特に包装資材の値上げのペースが速く、発注する度に上がっている感じがする。直ちに価格転嫁する事は出来ないで悩むところである。</li> <li>・単価の高い商品が敬遠され、メニュー等から外されることにより減収となった。</li> <li>・アジア系の観光客が少なくなり、売上に悪影響を及ぼしている店舗もある。</li> <li>・人材不足。</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野での需要が拡大。</li> <li>・2026年施行予定の行政書士法改正を見据え、補助金申請業務の体制整備を進めており、今後の業務拡大に向けた基盤が構築できている。</li> <li>・長浜市を中心とした地域密着戦略により信頼関係を築き、関西圏への事業展開の機会も生まれている。</li> <li>・お金の動きに大きな変化はないが、受注内容はやりたい仕事の比率が上がっている。</li> <li>・新しく営業できる場所ができてスタッフの売上UPができた。</li> <li>・自家用給油所の導入により燃料費の削減効果と、燃料を取引先に販売したことで売上・収益の増加に寄与。</li> <li>・事業がスタートしたばかりなので少しずつ販路が増えてきた結果が反映されてきた。</li> <li>・訪日外国人客の増加による平均稼働率の向上。</li> <li>・不動産取引が東京など都市部を中心に活発な状況が継続し、徐々に取引も取引額も増えているように聞く。原材料などモノの全面的な上昇から「良い土地」は上昇傾向にある。</li> <li>・経済情勢的に販売価格の値上げに対して、不満を言われる事が少なくなった。</li> <li>・他事業が少しずつ進行している。</li> <li>・従業員の能力が上がり、次の経営展開への見通しがついた。</li> <li>・団体の事業は戻ってきている。</li> <li>・リピート顧客が増えている。</li> <li>・客単価が少し上がった。</li> <li>・ホームケアでアロマを取り入れてくださる方が増えた。</li> <li>・経営に危機感を持って、人材と向き合う意欲をより高く持った経営者が増えたように感じる。</li> <li>・企業努力により少々好転。</li> <li>・物販の強化で、客単価は少々上昇。</li> <li>・現在の所は地元、観光の方も徐々に増え売上増になりつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手一杯になり納期が遅れることによりキャッシュフローがシビアになった。</li> <li>・新規の顧客がなかなか増えない。アプローチを考えなければ。</li> <li>・車両追加によるリース料の増加。</li> <li>・金利上昇による借入金利の引上げ。</li> <li>・仕入れや維持費等がかさむ中、販売価格提供価格がアップしづらい。今後、収支が見合わない提供価格になると赤字になる可能性もある。</li> <li>・運転手不足で取れる仕事を断ることが多かった。</li> <li>・「良くない土地」は価格の下落が止まらない。</li> <li>・仕入れの値上がりにより当社の販売価格の変更が難しい。毎月何か値上がりしている。</li> <li>・利用者の減少。</li> <li>・キャンプブームの終焉。夏が暑すぎて屋外は厳しい。</li> <li>・人口減少における就職希望者数の絶対数の減少。</li> <li>・価格の値上げにふみきつたので、受注に結びつくか様子を見ているところ。</li> <li>・仕入れ値の高騰、運送代の高騰。</li> <li>・物価高騰に加え、酷暑の影響もあるのか来店者数が減少しつつあるか。</li> <li>・原材料や全ての物の値上がりで、カード決済が多くなり負担増。</li> <li>・物価上昇により、お客様の購買意欲の減少が見られるようになってきている。</li> <li>・集客を大きく落としている。</li> <li>・光熱費の増加が経営を切迫している。</li> <li>・お米の価格高騰。</li> <li>・輸入品の高騰。</li> <li>・お客様の消費の冷え込み。</li> </ul>
建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受けでの仕事が増えた。</li> <li>・販売価格への転嫁は認められやすくなった。</li> <li>・物価上昇に伴う人件費、資材費の高騰が広く認識され、販売価格への転嫁が行いやすくなった。</li> <li>・空き家問題や所有者不明土地問題に対して、相続登記の義務化や相続土地国庫帰属法の整備で空き家の社会問題化の一助になるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械の購入、レンタルなどの出費が増えた。</li> <li>・物価高騰により消費者の購入意欲が著しく低下している。</li> <li>・物価上昇は継続。政治的にも先行き不安あり。</li> <li>・事業再構築補助金のように中小企業が大きな設備投資の際に挑戦できる補助金が少なくなり、設備投資の機会が減少しているように感じる。</li> <li>・R7.6.1施工の熱中症対策の義務化に於ける対価と実質労働時間の制限で夏場3ヶ月程の間、工期と工賃をクリア出来るのか解らない。</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期に引き続き、船舶用環境負荷物質削減装置の需要が強くなり売上に貢献している。同様今年度も取引先への労務費価格転嫁交渉を進め、一定の回答をいただけたことで収益が安定。</li> <li>・お客様からの受注が増えた。</li> <li>・為替相場が落ち着きを取り戻し、近年の原材料価格の一方的な上昇傾向に落ち着きが見えてきた。同業他社と差別化した商品開発を進めてきた結果がはじめており、高付加価値商品への注文が増えている。</li> <li>・自社の業況、受注数も前年よりも多くなり生産数も安定して来ている。外資企業様にもまだまだ頼らないといけないが今後も出来るだけ自社生産率を上げる事を目標とする。</li> <li>・中国市場の在庫適正化と政府施策による受注増。北米市場は顧客により分かれるも概ね良好。労務費上昇に対する価格転嫁も顧客の理解を得られて適正に転嫁ができた。</li> <li>・他社の在庫切れで売上が上がった。</li> <li>・新たな取引先が増えたことで、繁閑の差が小さくなる事が期待される。</li> <li>・手形がでんさいや振込に変化してきており、またサイトも短くなってきている。</li> <li>・和装については弊社得意先の在庫調整はほぼ終わったと思われること。新規(広幅とアパレル製品)分野については営業活動の成果が出つつあると思われる。</li> <li>・新しく耐震や古民家事業にも力を入れている。</li> <li>・関税発動前の駆け込み需要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下半期にトランプ関税の影響がでてくる可能性あり。</li> <li>・今年は万博の影響で警備員の確保が難しいなどの理由で花火大会の中止がある。</li> <li>・自治会の役があり製作が遅れている。</li> <li>・一般的な景気は悪く消費が冷え込んでいるため、流通の中間在庫は圧縮ムードとなり年内受注の先行き見通しは芳しくない。</li> <li>・仕入れ価格の高騰は急激ではないが、年々少しずつ上がって来ている。</li> <li>・先行きの内示に若干の不透明感が出てきた。</li> <li>・同業者数が減った。</li> <li>・景気の先行き懸念により、設備投資や研究開発の需要が減っている。</li> <li>・自動車産業がトランプ関税の動向を踏まえて在庫調整なのか製品の出荷状況が低調。</li> <li>・販売価格の引上げは実施しているが、自社の従業員の賃上げ等に追いつかない。タイムラグもあり収支は厳しい状況である。</li> <li>・自動車開発低調。鋼材値上げ。</li> <li>・和装の全体の業況が一段と冷えてきていること。</li> <li>・景気は明らかに悪化しており、特に新築需要が激減。湖北の人口増加も望めず、住宅事情は苦しいと思う。</li> <li>・業界一斉の仕入れ価格改定等採算悪化要因が発表された。</li> </ul>